

別冊マップC-2

修道碑

童謡「なかよしこみち」の作曲の舞台となった上野小学校の通学路の横にある修道碑。この碑は昔、地元の人が苦勞して作った道の完成を記念して建てられたものです。



別冊マップF-2

龍ヶ鼻ノロシ台跡公園

金田方面からの敵の侵攻を香春嶽城にノロシで知らせた場所とされています。

別冊マップC-2

原田町の道標

上野村が筑前と田川の交通の要所であったことを示す道標です。ここは太古の昔から村の中心地で「町」をつけて「原田町」と呼ばれています。



別冊マップB-4

南木菅原神社

タカオ神は貴船大明神と称し、往古より鎮座していましたが、延喜元年(901)菅原道真公がこの神社で休息して短冊に「生い茂る一木の松をここにみてなおなつかしき東風ぞふく」と詠じ、これにより天仁2年(1109)に神殿を再建し、天満宮と改称しました。



別冊マップB-3

坊主ヶ谷

その昔、雪道で遭難した僧侶が、山肌に穴を掘り、避難をしているときに燃える黒い石を見つけたと言われ、坊主ヶ谷は炭坑の発祥地と言われています。



↑ 興国寺文書(有形文化財指定)
→ 無隠元晦座像(有形文化財指定)

別冊マップA-2

東光寺

興国寺の末寺で天文年間に創建。戦国末期の焼き討ちにより消失しましたが「焼き仏」が残っています。



別冊マップD-1

興国寺仏殿(観音堂)



興国寺開山と仰がれる無隠元晦禅師は、郷土が誇る日本中世史の高僧であり、禅師の座像や数々の古文書等に偉大なる業績を偲ぶことができます。同時に足利尊氏・直義兄弟の発願によって全国66カ所に建立された安国寺の一つでもあります。

別冊マップC-4

稲荷神社



古来イザナギノ大神を金田庄の産土神として奉斎していましたが、天長7年(830)伏見稲荷を分祀勧請して、稲荷金田宮と称したのが始まりです。

別冊マップB-4

飯土井神社



元号1507年、豊筑国境の日王神社から天照大臣を若宮神社に奉還したとき、天照大臣のお告げより、神社の東北に井戸を掘ると清水が湧出し、土が赤飯のようであったことから飯土井神社と呼ぶようになりました。

別冊マップE-3

伊方古墳



県指定史跡の伊方古墳遺跡は全長約11メートルもある石室で、年に一度だけ一般公開されます。

別冊マップD-1

河村光陽歌碑

「かもめの水兵さん」や「うれしいひなまつり」で有名な童謡作家・河村光陽の生誕地である福智町では昭和63年に「童謡の町」を宣言して以来、童謡のまちづくりとして取り組んでいます。



河村光陽(かわむらこうよう) 童謡作曲家。明治30年8月23日、上野村(現福智町)に生まれる。



古墳・遺跡からの出土品

遠賀川流域は太古より大陸の玄関口として栄えてたため、弥生時代、古墳時代といった古代人が生活してきた遺物が大量に発見されています。

触る

陶芸・体験教室

福智町には、陶芸教室や体験教室を開催している窯元も点在しています。実際に自分で陶器を作ってみるのも焼き物の楽しみのひとつです。



※お問い合わせは各窯元へ

別冊マップD-3

日立マクセル

今は九州日立マクセル(株)の敷地となっていますが、この赤レンガ建物は旧三菱方城炭坑坑務工作室で、当時としては欧米の炭坑をモデルとしたモダンなものとして、とても評判になったようです。現在、建物内部は一階が同社製品展示室、二階が喫茶店として利用され、建物全体を鳥が覆い、季節の風情が楽しめます。

※会社敷地内につき、平日、事前予約で見学が可能です。
TEL 0947-22-0585



国登録文化財

見る

今も残る赤レンガ建物